

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	50	学 校 名	静岡県立島田工業高等学校	校 長 名	飯田 龍太郎
------	----	-------	--------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立、規範意識や社会性の育成を通して、人間力の基礎を築く。	「挨拶がしっかりできている」「場に応じた着こなしができている」と答える生徒100%。	学校評価アンケート（生徒）1 挨拶 97.8% 学校評価アンケート（生徒）2 服装 94.8%	B	挨拶はできるようになったが、TPOに合わせた挨拶や、もっと元気のある挨拶ができるようになりたい。今後は、学年や学科、部活動と連携して挨拶励行の徹底を図りたい。また、集会時の正装に関しては式典や集会時には正装する意義や必要性を持たせたい。
		遅刻者の年間平均が1日1人以内。	1 学 期 平 均 0.77人 2 学 期 平 均 0.93人	B	学年平均だと1年生が1人を超えている。原因は長欠や持病持ちだと考えられる。また、2学期に欠席等が集中するため、その対策も考えたい。
		自転車安全指導カードを交付された数が前年度より減少。	自転車安全指導カード R5年度 51枚 →R6年度 11月までで7枚	B	前年度と比較して大幅に減少している。自転車事故が減らないことから、基本的な交通ルールの徹底が不十分であった。
		図書館の利用者数延べ3,000人以上。	4～12月の延べ人数で、昼および放課後の利用者（2,348人）と授業等団体利用（933人）の合計が3,281人に達した。	A	一人当たりの平均貸出冊数は2.6冊（昨年度2.5冊）で、カウント外のコンビニ文庫も順調に活用されている。図書委員会による学期ごとの企画展示や、読みやすい「図書館だより」さらに生徒作成の工夫されたポップを定期的に掲示し、親しみやすい図書館作りができた。書籍のリクエストにも可能な限り対応。さまざまな事情を持った生徒が安心して本に向き合える環境であるよう、今後も利用者に配慮し運営していきたい。
イ	生徒を前面に出した教育活動を推進する。	「学校行事やクラス活動で互いに協力し合っている」と答える生徒90%以上。	体育大会・文化祭・HRデー・LHR 学校評価アンケート（生徒）4 行事・クラス活動 96.1% 学校評価アンケート（保護者）9 89.5%	B	文化祭や体育大会などの学校行事に多くの生徒が積極的に参加し、充足感を得ていることは評価できる。保護者からの回答ではおおむね良好である。保護者への学校行事の告知や報告を今後も丁寧に行う必要がある。
		生徒会が企画した事業の実施。	体育大会・文化祭時の生徒会企画の実施。	A	文化祭に加えて、体育大会の生徒会種目を実施した。またこの2つの行事では、クラスTシャツの着用を許可した。

様式第3号

イ	生徒を前面に出した教育活動を推進する。	部活動加入率 95%以上。	部活動加入率 95.1% 運動部64.3% 文化部 30.8%	A	部活動加入率 95.1%。2・3年生は加入が任意であるが、継続して部活動に取り組む生徒が多いのは良い傾向である。
		「他の部員と協力して部としての目標達成のために努力している」と答える生徒80%以上	学校生活アンケート 15 1年 72% 2年 76% 3年 65%	A	部活動加入率が高い水準であることに比例し、チームとしての結束が不可欠な大会で成果を出していることから目標は達成していると考えられる。
ウ	授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。	授業改善をテーマとした校内研修を、年3回以上実施。	6月に2回、10月に1回授業改善特にICTの活用について研修を行った。	A	「教員は、ICTを取り入れた授業を行おうと努めている」の項目で78.6%「あてはまる」と回答している。今後も継続し、「全くあてはまらない」を0%にしたい。
		校内外で授業参観をした教員80%以上。	検証するデータがないが、定期訪問時に公開授業を行っている。	B	公開授業期間中に何回他教員の授業を参観したか回数を調べる等、授業参観について客観的に集計できるアンケート等の実施を検討する。
		「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。	「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒91.5%。	A	グループワーク等でのICTの活用が増え、講義型の授業が減っている。一方、受動的な様子から積極的に授業を受ける様子が捉えられるので、今後も校内研修を重ね、効果的な授業づくりを進めていきたい。
		GWSなどの学習系クラウドサービスを授業で活用している教員80%以上。	検証するデータがないため評価しにくい。校内研修でICTの活用について取り上げている。	B	数字には出せないが、多くの教員が授業で1台端末を活用している様子である。アンケート項目や回答方法の見直しなど成果目標を検証できるようなデータ収集方法を検討する必要がある。
		「家庭学習を毎日60分程度行っている」と答える生徒60%以上。	家庭学習を毎日60分程度行っていると答える生徒25.6%。	C	目標達成ができていない。1日1Pを無くした影響もあると思うので対策を考えていきたい。実習のレポートや資格取得のための自己学習を想定していたが、家庭における学習習慣の定着には至っていない。今後は、放課後の時間を活用し学校で学習習慣をつけさせることなどについて検討していく。
		「課題や提出物をしっかり出している」と答える生徒95%以上。	「課題や提出物をしっかり出している」と答える生徒95.8%	A	全校集会や学年集会等での呼びかけや生徒が課題や提出物にきちんと取り組めるような年間行事予定を計画していきたい。肯定意見が95.8%を達成しており、ほぼ全ての生徒が期日までに提出物を出すことができています。

様式第3号

ウ	授業改善と学習習慣の定着に重点を置き、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、知識や技能を活用する力や思考力を育成する。	基礎力診断テストの各科目で学習到達度D判定の生徒を前回より減少させる。	Dゾーンの生徒の割合 1年23% 2年37% 3年41%	C	4月のデータと比較するとどの学年もDゾーンの生徒が増加している。実施時期等の取組み方法を検討していきたい。
エ	全体への計画的なキャリア教育と個に応じた進路指導の両面から、生徒の進路実現を支援する。	「進路について自分で情報を集めたり先生や保護者と相談したりしている」と答える生徒75%以上。	アンケート結果 生徒90% 保護者84.9%	A	この数年間の様子を見てみると、実行できている生徒は増加している。取り掛かりが遅い生徒もいるため、もう少し早くから実行できると良い。
		「進路目標の早期作成に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。	アンケート結果 生徒86% 保護者90.5%	A	インターンシップの取り組みや、出前授業や現場見学会、ホビーショーなど地域の産業界との交流を通じ、生徒の進路意識を高揚させることができた。個に応じた進路指導、面接指導を行い、生徒の進路実現を図ることができた。しかし、各学科の学習内容に沿った職業選びができていないように感じる。
		学校紹介民間企業就職内定率100%	就職希望者は100%内定。	A	今年度は第一希望としていた企業の求人が来ないケースがあったものの、たくさんの企業からの求人を頂いた。12月末時点で内定100%を達成した。
		公務員希望者の合格率80%以上。	12月末時点10名中8人内定で80%	A	8名は希望する市役所、自衛隊に内定を頂いた。2月初旬に残り2名の合否が決定する。
		大学・専門学校進学希望者の第一志望校合格率90%以上。	第一志望の合格率97.5%達成。	A	3名の生徒が国公立大に挑戦し、2名が合格を果たした。総合型選抜(AO)や一般推薦等の入試で高い合格率を達成した。
オ	将来の工業技術者として必要な基本的な知識や技術、安全意識を身に付けさせる。	安全教育資料に基づく指導と5S・KYの徹底により、実習中の事故0件を達成する。	実習中のけが14件(軽微なものを含む)。	B	年度当初に安全教育を行い、安全意識の徹底を図った。また毎時間、実習前に必ず安全確認を行い事故防止に心がけた。生徒の安全意識は高い。電子工作を行うこともあり今後もやけどや感電等の事故が無いようにしていきたい。
		課題研究論文集の作成や、発表会開催により、校内での学習成果を共有する。	課題研究文集の作成、各科での課題研究発表会の実施、代表の班による校内発表の実施。	A	各班で決めたテーマに向けて1年間取り組み、問題意識や課題解決能力を養うことができた。また文集の作成や発表会に向けての準備など、自分たちの研究成果を他の生徒に共有させる取り組みができた。1月24日には、全校における発表会を行う。

オ	将来の工業技術者として必要な基本的な知識や技術、安全意識を身に付けさせる。	各科で重視する資格・検定について、目標合格率を定め、達成する。	ボイラー、溶接、製図検定など 80%以上の合格率達成 第2種電気工事士合格率 98% 2級土木施工管理技術検定合格者 25 名 (71%)	A	ボイラー取扱技能講習、アーク溶接技能講習、ガス溶接特別教育、機械製図検定などにおいて合格率 80%を越す事ができた。第2種電気工事士については3年生 37 名所得、2年生は 31 名合格し、10 名は下期試験を受験し現在結果待ちである。第1種電気工事士は2年生で1名合格した。2級土木施工管理技術検定（第一次検定）は今年度も 70%以上の合格率を維持できた。
		ジュニアマイスター顕彰制度において、ゴールド・シルバー合わせて 20 名以上認定を受ける。	ブロンズ0人 シルバー8人 ゴールド5人 (内1人は特別表彰)	B	1年時からの積み重ねのため、どのように学習を重ねていくかが来年度に向けての課題となる。今後は、学科に関係する資格・検定以外の様々な資格・検定にも挑戦させていきたい。
		県高校生競技大会や公募コンテスト等に団体・個人合わせて参加 25 件以上、上位入賞 5 件以上。	ものづくりコンテスト東海大会、溶接部門、測量部門に出場。 静岡県ものづくり競技大会の旋盤1名、溶接2名、CAD2 名、IT ネットワークシステム管理3 名木材加工 2 名、測量4 名出場。ロボットアイデア甲子園中部大会に5 名参加。	B	溶接ではものづくり東海大会第3位であった。 エコラン大会は参加予定であったものの残念ながら悪天候の為大会が中止となった。各部門に参加する生徒は、日々の積み重ねをしつかり行い努力することができた。指導のノウハウをどう伝え今後の活動に役立ていくかが課題となる。 ロボットアイデア甲子園では、初めて全国大会へ出場した。全国大会では特別賞(不二越賞)を受賞した。
カ	積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	島工通信 年 6 回以上発行。 公 式 S N S (X) または H P 記事掲載 月 25 本以上 (工業科+学年月 15 本以上) (普通科+部活月 10 本以上)	島工通信 年 7 回発行。 公式 SNS (X) または HP 4~12 月で合計 300 件投稿。 記事掲載 月 33.3 件 (工業科+学年月 18.2 件 普通科+部活動 10.6 件) 学校評価アンケート (保護者) 14 HP 更新 (昨) 58.8%→ 65.2%	A	記事投稿数は目標数値を達成している。新 HP への移行後も情報発信は続いている。 学校評価アンケート (保護者) の割合も昨年度に比べ大幅に増えた。 しかし、学校評価アンケート (保護者) 「わからない」が 28.1%と高く、新 HP と公式 SNS と両方で必要な情報を発信していきたい。

様式第 3 号

カ	積極的な情報発信や、保護者・地域・産業界と連携した教育活動を推進し、地域に信頼される学校づくりを推進する。	島工生が中学生に説明する場面を増やす。 1 日体験入学における中学生・保護者の満足度、ならびに中学校説明会における中学生・保護者の満足度各 80%以上。	体験入学 「工業高校の内容がよく分かった」80% 「工業高校の実習などに興味を持った」62.9% 中学生対象説明会 「島田工業高校の内容がよくわかった」74.3% 「島田工業高校の実習などに興味を持った」20%	B	体験入学の参加者数は昨年より減少しているが、昨年の類別選択体験から全科体験へと内容を変え、幅広い視点から工業高校の魅力をアピールできた。アンケートの結果からも 82.7%が進路決定に役立つとの回答が得られた。また記述アンケートでも好意的な意見が多いことから目標である「中学生、保護者の満足度 80%以上」に届いたと考えられる。地域の中学生の数が減少する中で、今後も丁寧な広報活動に努めていきたい。
		小中学校への出前授業や地域の方対象のものづくり教室等の開催年 7 回以上。	六合こどもチャレンジへ参加(情報電子科) 六合文化祭への参加(機械科) 島工サイエンススクール(全科)	B	8 月 24 日に六合公民館にてこどもチャレンジクラブに参加した。ドローン操作体験を行い、いかに障害物を素早く超えて、既定の航路を進めるかタイムの競争をするなど大変喜んでいただいた。
		保護者が参加・参観する行事の開催年 7 回以上。	進路ガイダンス、保護者向け説明会 7 回以上実施	A	文化祭は入場制限を撤廃した結果、多くの保護者が来場して授業以外の生徒の様子を見てもらえた。また、PTA 展では各地区からの協力で本部バザーを盛り上げた。 PTA 理事会 3 回、総会、総会に合わせ公開授業、PTA 地区研修会、オープンスクールを実施した。
		地域の企業・大学等による出前授業の開催年 10 回以上	潮トンネル見学(E・J 科) 各種 TV に出演(J 科)	B	今年初めて情報電子科が見学会へ参加した。 発明した(デジタル聴診器、耳鳴り抑制装置)が全国で放送された。 機械科では出前授業を、建築科・都市工学科では現場見学会を実施した。
		生徒の地域防災訓練参加率 70%以上。	12 月に実施される地域防災訓練への参加を促す。	B	12 月の地域防災訓練への参加率は 27.7%であり、昨年度よりは増加したが目標数値には達していない。しかし、生徒の学校評価アンケートからは 59.1%が危機管理意識が向上していると回答があった。
キ	生徒が安心・安全に授業や諸活動に取り組める環境を整えられるよう、教職員の資質向上に努める。	不祥事根絶研修を毎月実施する。	毎月、職員会議の後に実施した。	A	毎月の職員会議の他、6 月には教職員各自で、不祥事根絶に関するチェックシートを記入して確認する研修、12 月には不祥事根絶に関する動画視聴による研修を実施した。

様式第3号

キ	生徒が安心・安全に授業や諸活動に取り組める環境を整えられるよう、教職員の資質向上に努める。	「こころと身体 のチェックリスト調査」と「学校生活アンケート」を実施し、回答内容によってはケース会議を実施する。	各学期に2種類のアンケートを実施した。 長期休業明けには別のアンケートを実施した。	A	アンケート結果を踏まえて生徒と面談し、本校の相談室につなげることができた。また、長期休業明けアンケートでは、生徒の健康観察、心の観察を行うことができた。
		情報セキュリティに関する校内研修年1回以上。	情報セキュリティに関する研修1回以上実施。	A	定期的に情報担当より全職員に情報提供等を行っている。今後も継続して実施したい。
		危機管理マニュアルの内容の確認。	危機管理マニュアルの点検・活用の徹底。	B	年1回の火災訓練実施に基づき、12月に避難動線を複数方向に分けた火災避難訓練を実施した。
		AEDによる救命や応急手当に関する研修年1回。	1月に外部講師を呼んで実施した。	A	AEDの使用法や使用する場面、本校のAEDの設置場所について、職員全体で共有することができた。
ク	組織的な業務改善を推進し、生徒に向き合う時間の確保、教職員の心身の健康保持に努める。	紙の使用量を前年度比10%削減する。	印刷用紙購入数 (12月時点) 1229㍻ →899㍻ 1㍻500シート 9%削減 (12月末時点)	A	アンケートなどをGoogle Formsなどで行うことで紙の使用量を減少させることができた。 今後も資料はクラスルームにアップし、各種会議資料も同様にできればと考えている。 配布資料等の電子化を図った。PTA・後援会総会資料を電子化して配布(1冊27枚の資料:会員数569人)。
		教員1人あたりの時間外勤務を昨年度より削減する。	年間総時間外在校等時間(平均) 4月～12月 281時間13分 →294時間14分	C	校内分掌における配置の見直しや職員安全衛生委員会の委員による声かけ等を実施した。しかし、部活動以外の教材研究でも時間外勤務が増加したことや、大幅な分掌替えや5年に一度の本監査や検査、調査と委託業務の発注、前年度にはなかった業務が集中したことが要因であると思われる。令和8年度までを視野に入れた分掌の割振りを計画し、今年度よりも削減することを目指していきたい。
		夏季休暇取得率100%。	確認したが、夏季休暇は取得できている様子であった。 夏季休暇取得率90.77%	B	運動部の顧問も含めて取得できていた。一部の職員について、制度の改正で10月末まで取得できることを周知されていなかったことが原因の1つだと推測される。次年度は周知し100%を目指す。
		文化の匠、部活動支援員、相談員等の外部人材を4人以上配置する。	文化の匠1人 部活動指導員2人 部活動外部指導者2人	A	外部人材を配置することにより、教員の多忙化解消、生徒の活動機会の確保につながった。

様式第3号

ケ	公費の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を充実させる。	「安全で快適に生活できる施設・設備が整っている」と答える生徒85%以上。	学校評価アンケート (生徒) 25 87.7%→ 85.8% 学校評価アンケート (保護者) 21 87.7%→ 91.5%	A	施設設備の老朽化が進行したことが、生徒からの評価が低いと思われるが、自力で対応可能なものは、迅速に対応した。限られた予算の範囲で、効果的に執行し、生徒の学習環境を充実させる。
		監査での文書指摘事項ゼロ	監査、会計・物品事務検査における文書指摘事項ゼロ	A	日々、緊張感をもって業務に従事した。最終決裁者が誤りを指摘する案件も多いので、一人ひとりが厳正なチェックを意識する必要がある。